

【授業改善推進プラン 6年 国語】

<p>児童の状況</p>	<p>【読む】 【言語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書量にかなり開きがあり、語彙力に課題のある児童も少なくない。 ○既習漢字の定着率が低く、ノートや作品で正しく漢字を使うことができない児童が少なくない。 <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書くことに苦手意識のある児童がいる。 ○書いた文章が、問題や条件に合っていないことがある。 <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章の内容や言葉の意味を、正しく読み取っていないことが多い。 ○情景描写や登場人物の心情について、正しく読み取れない児童がいる。
<p>指導についての課題</p>	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題や条件を整理して、文章を書かせる機会を確保しにくい。 <p>【言語】 【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○語彙を増やしたり、教科書にある言葉の意味をすべて確認したりする機会を確保しにくい。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教科書を電子黒板で示しながら授業を行うなど、児童の興味を引く工夫をする。 <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的意識（何のために）や相手意識（だれに）などを明確にして、文章を書かせる。 ○タブレットを活用し、言葉の意味や使い方などを、友達同士で共有できる環境をつくる。 <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとのねらいを明確にして伝え、問題や条件を正しく読み取らせる。
<p>読み解く力の育成</p>	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章中の主語や述語、目的語、指示語などを確認する。 ○文中に出てくる指示語の内容を確認する。 ○文章や話を友達同士交流させ、自分と同じ考えかどうかを判断させる。

【授業改善推進プラン 6年 社会】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ○事実と考えを分けて資料を読み取ることができる児童は一定数いる。 ○ノートに自己の考えや調べたことを自分なりに記述できる児童が一定数いる。 ○友達と話し合いながら、考えを整理したり、まとめたりすることができる。 ○知識の量や意欲に差がある。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指導が単調になりがちである。 ○児童の興味関心を引く、指導の導入が毎回できていない。 ○振り返りの視点が本時のねらいと正対していないことがある。 ○時間数に対して学習内容が膨大で、予備知識のない児童にとってはなかなかテストの点数に結びつかず、意欲を削ぐことになってしまう。 ○地方自治の単元に関して、自分の地域とかけ離れた題材で実感を伴った学習になりづらい。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身に付けさせたい資質・能力の重点化を図り、児童と共に共有することで「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」をバランスよく身に付ける。 ○シミュレーション活動や体験的な活動を積極的に取り入れる。 ○必ず抑えたいキーワードを強調する、毎時間前時の簡単な振り返りから入るなど、児童の思考が常に整理できるよう工夫する。 ○板橋区の事例を取り上げるなど身近な題材を活用する。
<p>読み解く力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読み取りのポイントを共有する時間を確保する。 ○分からない言葉は調べさせるようにする。 ○自分の考えと他者の考えを比較する場面を積極的に取り入れる。 ○グラフや写真資料からわかることをなるべく多く書き出す作業を取り入れ、共有することで多角的な見方を養う。

【授業改善推進プラン 6年 算数】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲について、個人差が大きい。 ○基礎・基本的な知識や技能が定着していない児童が多い。 ○コンパス等の器具を使うことを苦手としている児童が多い。 ○割合や比例、数直線を課題を苦手としている児童が多く、学力調査でも、東京都の平均正答率を下回っている。 ○習ったことを活用したり筋道立てて考えたりする力、言葉・式・絵や図などを用いて解き方を表す力について個人差が大きい。 ○自分の解き方を説明することに苦手意識をもっている児童がいる。 ○他者の解き方の説明を聞いた際、自分の考えと比べ意見を述べたり質問したりする力が不足している。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○導入場面の工夫などを通して、意欲を高める指導を更に追及する必要がある。 ○問題を解くための方法を身に付けさせたり、コンパス等の器具を使えるようにしたりするために、繰り返し指導を行う必要がある。 ○既習事項を新出事項に生かすことを難しく感じている児童がいるため、必要に応じた既習事項の確認が必要である。 ○困っている児童に対しての支援方法を研究し、更に教材教具を用意する必要がある。 ○児童の発言力（特に対話的な話し合いの仕方）を高めるための具体的手だてを更に増やす必要がある。
<p>授業改善に向けての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の初めの問題を工夫する・電子黒板や書画カメラを活用することを通して、児童の興味・関心を高める。 ○既習事項を確認しながら、未習事項の学習につなげる。 ○問題解決において、既習事項をどのように活用すればよいか必要に応じて見直しをもたせる。 ○困っている児童を適宜集め、個に合わせた具体的なアドバイスを行う。 ○ノートのかき方・発問や解法でよいものを取り上げ全体に示すことにより、グループ全体の表現力・思考力の底上げを図る。 ○児童が解決法を説明する際、価値のある発言や質問を取り上げ、よい点を具体的に示す。 ○視点を明確に示すなどして、振り返りをより充実させる。 ○デジタルドリルなどを活用し、個に応じた習熟を推進する。 ○コンパス・ものさし・三角定規を使った学習については、繰り返し練習を行い正しく使えるように指導を行う。
<p>読み解く力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文章題の内容を確実に理解させるために、「わかっていること」「聞かれていること」に線を引かせ全体で確認する。また、必要に応じ数直線や線分図、絵などを利用し、文章題理解の一助とする。 ○問題を一人一人が考えた後、解決法を書いたノートを児童同士で読み合う時間を設け、他の児童が考えた解決法を読み取る力を伸ばす。

	<ul style="list-style-type: none"> ○解き方を発表する際、初めに児童の解き方を書画カメラ等に写す。そして、どのように解決したのか考える時間を設け、図や表・式などから解き方を読み取る力を伸ばす。 ○定義となる語彙が新たに登場した際、ノートに記載させ全員で読ませたり、当てはまる具体例を考えさせたりすることにより、新しい語彙を確実に定着させる。
--	---

【授業改善推進プラン 6年 理科】

児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲に個人差が大きい。 ○実験結果からわかることをもとに、より妥当な結論を出すことができる児童はあまりおらず、思考が深まっていない児童がいる。 ○学習全体を通して苦手としている児童が多く、学力調査でも東京都の平均正答率を下回っている。全国平均を下回っている項目も少なくない。 ○既習事項の定着に個人差があり、これまでの学習をもとに考えることが難しい。 ○実験計画の手順を具体的に考えることが苦手である。
指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自力で実験計画をたてたり、疑問を解決することができるよう解決可能な問題を設定する必要がある。 ○自分で解決方法を発想できない児童のために、児童の理解度に応じて個別の支援をする必要がある。 ○児童の表現力を高めるために、文章例や、過去の学習記録を例示する必要がある。 ○児童が学習により主体的に取り組めるよう、事象との出会いに活動や体験を取り入れる必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	<ul style="list-style-type: none"> ○実験方法やその手順を自分たちで計画する時間を確保し、自分でたてた予想や仮説から実験までの見通しをもった活動ができるよう学習計画をたてる。 ○児童の意欲や自力解決をしたいという思いを高められるよう、身の回りの児童が不思議に感じる事象を提示して授業の導入を行う。 ○ノートのかき方・発問や解法でよいものを取り上げ全体に示すことにより、表現力・思考力を高める。
読み解く力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「読み解く力を育成するための三原則」を意識した授業展開にする。 ○実験方法や実験結果を、図を用いて表すようにする。 ○疑問に思ったことに対する予想や、実験結果をもとにどんなことが言えるかを考え、表現する活動を行う。 ○観察、実験の結果を表やグラフに整理したり、予想や仮説と関係付けながら文章でまとめてノートに記述したりする活動を取り入れる。 ○児童同士で互いの考えを伝え合い、相違点を確認し合う時間をとる。

【授業改善推進プラン 6年 音楽】

<p>児童の状況</p>	<p>○様々な曲想の楽曲に触れ既習事項については経験を積んでいるが、曲想と音楽の構造などとの関わりへの理解・表したい音楽表現のために必要な知識・技能には児童による差が大きい。（知識・技能）</p> <p>○曲想にあった音楽表現を考えることができる児童は多い。しかしながら、表現に対する思いや意図に偏りがあったり、曲や演奏のよさを見出すことに支援を要したりする児童もいる。（思考・判断・表現）</p> <p>○友だちの意見を取り入れたりするなど主体的・協働的に学習活動に取り組む児童が多い一方で、苦手な部分を繰り返し練習するなど粘り強く取り組むことには課題が見られる。（主体的に学習に取り組む態度）</p>
<p>指導についての課題</p>	<p>○知識・技能の習得に時間を要する児童への声かけや手立ての不足。</p> <p>○音楽表現に対する思いや意図について考えた上で表現したり、曲や演奏について意見を交換したりする機会の不足。</p>
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<p>○児童の実態に応じた常時活動の設定を行うとともに、階名つき楽譜、練習動画などの副教材をクラスルームにアップして児童のレベルに応じた自主練習ができるようにする。</p> <p>○作曲・作詞の背景に触れた上で作曲家・作詞家の意図を想像させるように支援したり、教師を始めとして他者が楽曲を味わいながら演奏したり鑑賞したりする様子を見て参考にさせる。</p>
<p>読み解く力の育成</p>	

【授業改善推進プラン 6年 図工】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○電動ノコギリなどの用具や、絵の具、パステルなどの画材、木材やアルミ線などの材料など、既習事項は十分な経験がある。しかし、そのような知識や技能の定着には児童間に差がある。（知識・技能） ○自分なりに作りたいものを発想できる児童とそうでない児童との差が大きい。また、自分の作品を客観的に見ることができず仕上がりや完成度が不十分であったり、発想内容に偏りがあつたりする児童もいる。（思考・判断・能力） ○図工全般に対して意欲はあるが、粘り強さなどには課題がある児童もいる。また、図工に自信のない児童も一定いるので、互いの認め合いの雰囲気が大事成る。（主体的に学習に取り組む態度）
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○完成度を高める意識が低い児童や、技能の定着が十分ではない児童に向けた、より効果的な個別の指導の技術や言葉かけ。 ○児童の発想力を高めることができるような声かけや授業の設定。 ○表現活動に一部制約があつた時期を経験している児童なので造形遊びや鑑賞等の共同的な学習の体験の少なさを考慮する必要がある。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○技能を定着していくために、それぞれの題材で既習事項を振り返る時間や、既習事項を生かしている児童の作品紹介などを行う。 ○各題材に色々な形式で鑑賞の時間を設けることで、児童の客観的な判断力や鑑賞の力を伸ばす。 ○色々な発想を取り入れられるよう、クロームブックを児童自身の判断で使い、調べることができるようにする。 ○新型コロナ流行期間に不十分であつたと考えられる題材を、現在の学年の実態に合わせて短い時間設定で、学習活動を行っていく。 ○教師の板書から、児童が自身でめあてを設定し、その時間の取り組み目標を持つ。併せて、そのめあてをもとに、その日の活動を振り返る活動を毎時間設定する。
<p>読み解く力の育成</p>	

【授業改善推進プラン 6年 家庭科】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫において、既習事項を忘れてしまっている児童が複数いる。 ○調理において、高い興味・関心をもって取り組んでいる児童が多い。その一方で、経験の差が大きい。 ○実習单元以外の内容について、興味・関心の差が大きい。 ○片付けにおいて、目的感をもって取り組める児童とそうでない児童との差が大きくなっている。 ○生活時間を見直す单元において、見直した結果、実生活に生かそうと頑張る姿が見られた。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○特に掃除・洗濯の場所について、実施できる場所が限られている。 ○調理の際、経験の豊かな児童が実践してしまい、経験の少ない児童の実践時間が少なかったり、時間がかかってしまったりすることがある。 ○学校で学習したことと家庭での実践を連携させたいが、実際は家庭状況によるので難しいところがある。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者ボランティアの協力により、個人のつまずきを支援する。 ○児童同士の学び合いを積極的に行わせ、技能を高められるようにする。 ○動画や実演など、視覚的な支援を充実させる。 ○学年便りなどで学習内容をアピールすると同時に、ご家庭の協力を仰ぐ。
<p>読み解く力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の調理手順、裁縫手順を見て、写真と説明文を一致させる。 ○教科書の調理手順、裁縫手順を見て、同じように実践できるようにする。 ○作業手順の一つ一つの意味や効果を理解しながら教科書を読む。 ○教科書に書いてあることと実生活を結び付けて思考したり実践したりする。

【授業改善推進プラン 6年 体育】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高い意欲・関心をもって取り組んでいる児童が多い。 ○めあてをもって学ぶことができるようになってきている。 ○技や技能のポイントの理解に差があるため、互いに見合ったり教え合ったりすることに課題が見られる。 ○基本的な技能の定着に課題が見られる。 ○体力テストの結果から、特に持久力や筋力、瞬発力において課題が見られる。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が苦手な児童に対する手だてが不足している。 ○基礎的な技能を定着させられるような手だてが不足している。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○スモールステップで技能を身に付けられる場や時間を設定する。 ○学習カードや資料、学習展開や学習形態を工夫することで、互いの動きを見合ったり教え合ったりすることができるようにしていく。 ○必要に応じてタブレット端末で課題に沿った動きの動画を撮り合い、自分の動きを振り返って課題を見つけさせ、解決に向けて取り組ませる。
<p>読み解く力の育成</p>	

【授業改善推進プラン 6年 総合的な学習の時間】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入場面においては比較的意欲的であるが、単元を通して粘り強く取り組むことに個人差がある。 ○表現活動には主体的に取り組む児童が多いが、学習内容を深めることよりも、イラストやスライドに時間をかけてしまう傾向がある。 ○インターネットにある数多くの情報について、妥当性や正確性をもとに取捨選択したり、自分や他者が理解しやすいように表現し直したりすることが難しい。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を通して、児童の興味・関心を高めたり意欲を持続させる手だてを検討する必要がある。 ○個に応じた指導を行うために、教師の役割をより明確にし、必要に応じて担任以外の人員を確保する必要がある。 ○複数の情報を比較し、妥当性や正確性について話し合っ取捨選択する機会をつくる。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の導入段階で、体験を充実させ、「自分に身近な問題である」と捉えさせる工夫をしていく。また、単元全体を児童にとって必要感のある内容にする。 ○情報を吟味する際の視点を示したり、その妥当性を確かめる必要性を指導する。 ○地域ボランティアや外部の方を招いて、児童に有意義な学びとなるようにする。
<p>読み解く力の育成</p>	<p style="text-align: center;">読み解く力の育成になじまない教科のため記述なし</p>

【授業改善推進プラン 6年 外国語】

児童の状況	<ul style="list-style-type: none">○今までの学んだ表現を使って、コミュニケーションを取ろうとする児童が見られる。○発音やスペルについて、慣れ親しもうと意欲的に取り組む児童とそうでない児童とで二極化が見られる。○外国語に対する苦手意識を、すでにもっている児童がいる。
指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">○教師が、中学校での学習を見通した指導をより学ぶ必要がある。○チャンツやゲームを取り入れながら、楽しんで発音やスペルに慣れ親しむ活動の工夫が必要である。○教員の指導力の向上を図るとともに、ALTと連携を図りながら指導にあたる必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	<ul style="list-style-type: none">○毎回の授業の中で、小学校段階で身に付けるべき知識や技能を扱った活動を取り入れ、習得を目指す。○ワークシートを工夫し、交流する場面を増やし、発話の機会をより増やせるようにする。○授業の進め方や役割分担などを計画し、ALTとの連携を図る。
読み解く力の育成	<ul style="list-style-type: none">○デジタル教科書を活用し、絵を見たり音声を聞いたりして、視覚的に内容理解を促せるようにする。必要に応じてALTや教師が補足の発問をして、学習内容について考えることができるようにする。○様々な場面で習得した表現に繰り返し慣れ親しみ、自分の気持ちや考えに必要な表現の習得につなげる。

【授業改善推進プラン 6年 特別の教科 道徳】

<p>児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値について、ある程度理解している児童が多い。 ○友達と話し合う中で、考えを深めようとする児童が多い。 ○実践しようとする意欲はあるが、その意欲が継続しない児童も多い。 ○議論の際は、様々な視点から道徳的価値について意見を出す児童が多い。 ○議論から考えが深まったり、新たな意見を発想することには個人差がある。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読み物教材の活用を中心としているため、自分事として捉えにくい場合がある。 ○自分事として真剣に向き合える学習展開をする必要がある。 ○内容項目によって、児童の意欲に差が出る。
<p>授業改善にむけての具体的方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を集めたり多様な指導方法を取り入れたりする。 ○少人数での話し合いを積極的に取り入れ、全員が主体的に参加できるようにする。 ○具体例や児童にとって身近なエピソードを取り入れ、自身の経験を想起して考えられるようにする。
<p>読み解く力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読み物教材の主語を確認する。 ○振り返りでは、既習事項や既習体験などをもとに、自分の気付きなどを書かせるようにする。 ○考えたことが言語化できるよう、話し合ったことが記述できる授業展開を意識する。